トビタテ！留学JAPAN　日本代表プログラム　留学状況報告書

※留学状況報告書はExcelデータで提出してください。（ファイル名：留学状況報告書_●期_学生個人番号_学生氏名.xlsx）

●基本情報

学生個人番号	S162V176010002
氏名(漢字)	木下　大輔
氏名(ひらがな)	きした　だいすけ
所属大学等名	宮崎大学
所属学部/研究科/学科	工学部
所属学科/専攻/コース	環境ロボティクス学科
課程(▼で選択)	学部
留学修了時の学年(○年)	4年
期　(○期)	5期
コース　(▼で選択)	多様性人材コース
留学開始日(yyyy/mm/dd)	2016/10/01
留学終了日(yyyy/mm/dd)	2017/02/28

●留学の活動概要と成果

活動概要と成果 **※主要な留学先を2か所記入してください。** **2か所を超える場合は、ページ下部にある「活動概要と成果（予備）に記載してください**	1	国名	オーストラリア
		都市名	ニューカッスル
		受入機関名	NSWIS
		期間(yyyy/mm/dd)	2016/10/01~2017/02/28
		活動概要と成果	オーストラリアのリオパラリンピックメダリストが在籍しているチームに所属した。そこでは、ナショナルチームのコーチもやっているコーチに他の選手とともに練習に励んだ。私は、短距離専門の選手だ。チームには、短距離のメダリストも在籍していたので一緒に走ることで肌でメダリストの走りを感じられた。日本で練習していた際には、技術練習よりも走り込みといったような環境で練習していた。だが、オーストラリアは、短距離の選手はスタートの技術や短い距離をいかに早く走るかに焦点をあてた専門的な練習ばかりだった。量よりも質といったような練習内容であったために最初行った際には不安になっていた。それでも、練習の中で動きが良くなっていくのを感じられるようになっていった。オーストラリアに渡豪して3カ月の練習成果を試すべく、オーストラリアで毎年1月に開催されいる国際大会（SUMMER DOWN UNDER）に参加した。この大会は、日本やカナダ，韓国，アメリカといったような様々な国のパラリンピック代表クラスの選手も多数出場している大会だ。大会では、１００mと２００mに出場した。１００mでは、私が持っていた自己ベストを1秒以上更新することができた。現在の日本記録と0.8秒差というところまでタイムを上げることができた。２００mは、自己ベストを2秒大幅更新することができた。また、様々な国籍の選手と話す機会ができ、国ごとのパラリンピックに対する考え方や練習に対する考え方も学ぶことができた。
	2	国名	
		都市名	
		受入機関名	
		期間(yyyy/mm/dd)	
		活動概要と成果	

日本発信プロジェクト **活動概要と成果** **※事前課題P22と研修で検討した内容をもとに記載してください**	活動タイトル (30文字以内)	OKONOMIYAKI PARTY~日本食を通じて日本に興味をもってもらおう~
	実行したこと	日本でよく知られているお好み焼きを通して日本食やを日本を知ってもらうと企画した。まず、語学学校でクラスメイトやトレーニングルームで仲良くなったジムメイトに声をかけ、多数の国籍の人に参加してもらった。オーストラリアのスーパーで売ってあるお好み焼き粉を購入し、中の具材は現地で一般的に購入できるものを使って調理した。また、お好み焼きだけでは物足りなさを感じたので、巻きずしを巻いてもらうことを体験してもらうために準備をし、当日実際に巻いてもらった。その他の卵焼きも調理して食べてもらった。当日は、20名の友だちが集まってもらった。お好み焼きを私が手本で焼き、そのあとは友達に実際に焼いてもらい食べてもらった。巻きずしも同様に最初だけ私が巻き、そのあとは参加者が好きなように巻いてもらうことができた。
	成果・ 気づいたこと	成果：日本の一般的な料理を知ってもらうことで日本食に対しての興味を広げることができた。また、現地に売ってある粉を利用したことで今後自分たちで調理して実際に食べてもらうことができた。お好み焼きを紹介した際に大阪を関連して紹介できた。そこから、地方ごとに特徴的な食べ物が日本に多数存在することを紹介できた。日本人＝寿司という以外の食べ物でイメージを作ることができた。 気づいたこと：多数の国籍を持った人が集まったおかげで日本食が良く知られている国とそうではない国が目に見えて気づけた。お好み焼きや卵焼きに近いものが他の国にも存在することがわかった。日本の商品はよく見かけるが使い方や食べ方が分からないから購入しない現状も気づけた。
留学中および帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと **※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください** **※具体的な経験エピソードをもとに記入してください**		日本に帰国後、日本のコーチの元に練習に行った際今後の方針について話す機会があった。その時、練習に対して、練習量を求められた。だが私は、その事について自分の感覚をディスカッションできた。留学以前は、ディスカッションをするようなことはなかった。留学に行った際に得た経験から帰国後は盛んにディスカッションを行うようになっている。留学中にオーストラリアのコーチからは、私の意見や感覚、身体の状態を毎日のように問われていた。私以外の選手にも同様のことをしており、それを元に練習メニューを調整していた。なぜ、そういうことをしているのかと聞いた。それぞれの選手が障害が違うことで、日によっての状態が異なるため第3者から見ていても分からないことが多いという現状がある。さらに、その点を考慮しなければいくら良い練習メニューを組んでも意味をなさないということ言っていた。だから、どんどん選手も自分の意見をいわなければならないと聞いた。留学以前は、選手はコーチの立てたメニューに対して意見を言ってはダメだと思っていた。むしろ、オーストラリアではそこそこが盛んに行われており、それで結果も出ているので意見を出していくきっかけになった。
あなたにとっての留学の価値 **※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください**		日本を外から見ることができ、自分と深く対話ができるいい機会になった。自分の中の常識というものを疑い、視点を世界レベルで物事を見ることができるようになった。多種多様な人たちと関わり持つことができ、日本では関わるようなことができない人たちと関係を持つことができるので本当の意味の多種多様社会を肌で触れられること。実際に海外に行くことで英語の汎用性を体験でき、英語の必要性が身をもって経験できる。

●留学機運醸成に向けた活動

エヴァンジェリスト活動企画 **※事前課題P68.69と研修で検討した内容をもとに記載してください**	カテゴリ	イベント（大学等）
	活動タイトル (30字以内)	留学×好きな事～あなたの好きな事で留学しよう～
	対象者・人数	学生
	実施場所	大学・教育現場
	実施時期	1月末
	内容	大学の国際連携センターと連携して授業やイベントの時に時間を作ってもらい、トビタテ生が自分の留学について発表してもらう。まずは、留学の形は多種多様なものがあることを知ってもらい、参加者の視野を広げてもらう。後日、またイベントを企画を作成し座談会形式で好きな事ややりたいことを聞き出していく。そこで、自分の好きな事を活かして留学できる方法を一緒に考えることをやっていく。実行方法まで一緒に思案していき、形をつくるところまでやる。
	達成目標	宮崎からトビタテ生を5人排出する。自分のやりたいことや好きな事で生きてもよいと思ってもらう機会作り。トビタテの留学計画書を作成時に困らないようにする。
	実施に向けたアクションプラン	大学の国際連携センターに対して提出できる企画書を作成中。宮崎大学のトビタテ生に協力を呼び掛けている。県内の学校を訪問して作成した企画を元に先生たちに留学の意義について理解を求める必要がある。